

平安人の願いと祈り—藤原摂関家と園城寺—



安嶋 紀昭 教授
(文学部長)

山といえば比叡山延暦寺、寺といえば園城寺と喧伝される総本山園城寺（通称三井寺）は、秘仏の宝庫としてもまた名高く、国宝智証大師円珍像、国宝新羅明神像等々の彫像群に加え、国宝金色不動明王像、国宝五部心観といった貴重な絵画群が、普段は厳秘の上で篤い信仰を集めています。中でも五部心観二巻は、昨年ユネスコの「世界の記憶」遺産にも登録された白描図像で、一巻が開祖円珍による中国からの請来本、一巻がその平安時代における写本として、知る人ぞ知る貴重な文化財でもあります。

ところで、園城寺では、来る2026年が円珍に智証大師の諡号を賜ってから1100年の記念の年に当たることから、史上初めて五部心観の本格的調査に踏み切りました。今回の講演では、大阪教育大学准教授高間由香里氏との共同研究による、その秘仏研究の一端をお話します。

ところで、入唐した円珍が宮廷絵師寅慶に描かせた両界曼荼羅は、藤原良房が外孫惟仁親王（後の清和天皇）のために特に制作を依頼したものでした。その結び付きは、道長の時代に至って一段と強力なものになるのです。

「光る君へ」藤式部の時代の建築と暮らし



三浦 正幸 氏
(広島大学名誉教授)

NHK 大河ドラマ
「光る君へ」建築考証

NHK 大河ドラマ「光る君へ」の舞台である平安中期の京における住まいや人々の暮らしについてお話します。中国唐の滅亡に伴う生活全般の国風化により、10世紀には貴族の邸宅である寝殿造が成立し、天皇は仁寿殿から清涼殿へ遷られ、かな文字・女房装束・貴族の装束・日本刀・鎧兜・螺鈿蒔絵といった日本文化が確立しました。その国風化の大変革が起こって間もない時代が今回の大河ドラマの時代です。藤原道長は法成寺という超巨大寺院を建て、息子の頼通の平等院阿弥陀堂（現、鳳凰堂）を始めとする自力本願の華やかな浄土教が全国に広まっていきます。その一方、京の庶民は苦しい生活を強いられました。様々な寝殿造・清涼殿・紫宸殿といった贅沢な住まいと貧しい京の町屋、鳥辺山や牢獄などの悲惨さ、そうしたドラマに登場した人々の生活の舞台をお話することで、ドラマの主人公藤式部（紫式部）が描いた源氏物語の世界を知っていただきたいと思います。

郵送でお申込みの場合はこちら

..... 郵送により申し込みをされる場合は、以下を切り取ってご使用ください

広島大学文学部創立 75 周年記念講演会申込書

ふりがな	
氏 名	
ご連絡先	〒
	電話番号： - -
	Email：

※お申込みに伴う個人情報は、講座の出席確認、緊急連絡、大学からのお知らせや案内、調査統計に利用し、その他の目的には利用しません。

お申込み方法

広島大学人文社会科学系支援室（文）
総務・人事担当宛に次の①②を郵送してください。

- ①申込書（太枠内（黄色部分））に記入）
- ②返信用封筒 1 枚（長形 3 号 12cm × 23.5cm、郵便番号・住所・氏名を記入し、84 円切手を貼付）

郵送先

〒 739-8522
東広島市鏡山一丁目 2 番 3 号
広島大学人文社会科学系支援室（文）
総務・人事担当宛